

一 戦前における師範教育

◆ 師範学校と高等師範学校

日本における戦前の教員養成制度の特徴は、独立する学校として特設された師範学校で教員が養成されるという点にあります。その基本的な骨格は、一八八六（明治一九）年の「師範学校令」によって作られたものでした。それは、尋常師範学校（のちに師範学校）と高等師範学校という二種類の学校を設けて、前者で小学校教員養成を行い、後者で中等学校教員養成を行うという形をとっていました。

小学校教員を養成する（尋常）師範学校は、高等小学校の卒業を入学資格とする府県立の学校（公立師範学校）で、中等教育レベルの機関として位置づけられていました。一方、中等学校教員を養成する高等師範学校は、中学校あるいは師範学校の卒業を入学資格とする官立学校で、高等教育レベルの機関として位置づけられていました。師範学校令が公布された一八八六年以降、終戦を迎えた一九四五年までの各学校数の推移は、図1のとおりです。

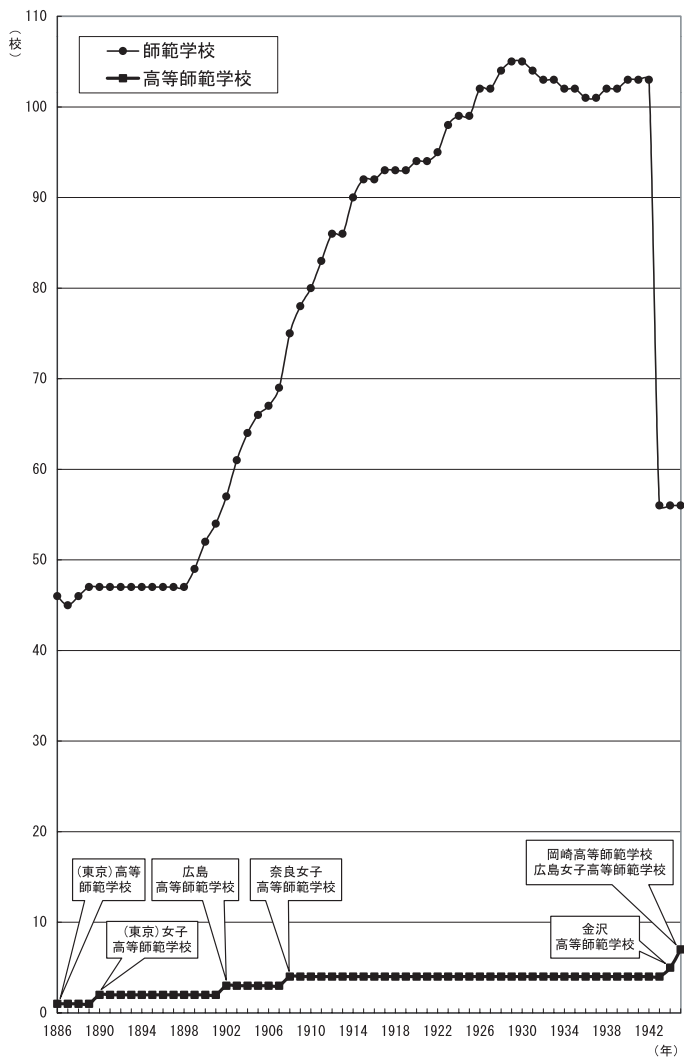


図1 師範学校・高等師範学校数の推移

◆数少ない高等師範学校

図1でわかるように、戦前全体を通じて中等学校教員を養成する高等師範学校は数校しか設置されませんでした。それらを設置年順にいうと、高等師範学校（一八八六年）、女子高等師範学校（一八九〇年）、広島高等師範学校（一九〇二年）、奈良女子高等師範学校（一九〇八年）、金沢高等師範学校（一九四四年）、岡崎高等師範学校・広島女子高等師範学校（一九四五年）の合計七校となります。

このうち、高等師範学校と女子高等師範学校については、広島高等師範学校と奈良女子高等師範学校が設置された際に、それぞれの名称が東京高等師範学校、東京女子師範学校に改められました。

◆中等教員の不足

さて、図1では詳細を読み取りづらいですが、奈良女子高師設置から金沢高師設置までの約三五年間、高等師範学校数は四校のままで推移しています。一方、同じ期間の中等学校における在学者数と教員数をグラフ化した図2をみると、前者が約一倍に増加しているのに対して後者の増加は約七倍であることがわかります。つまり、中等学校在学者の急増に見合うだけの教員数の増加がみられず、教員不足の状態が続いていたのです。

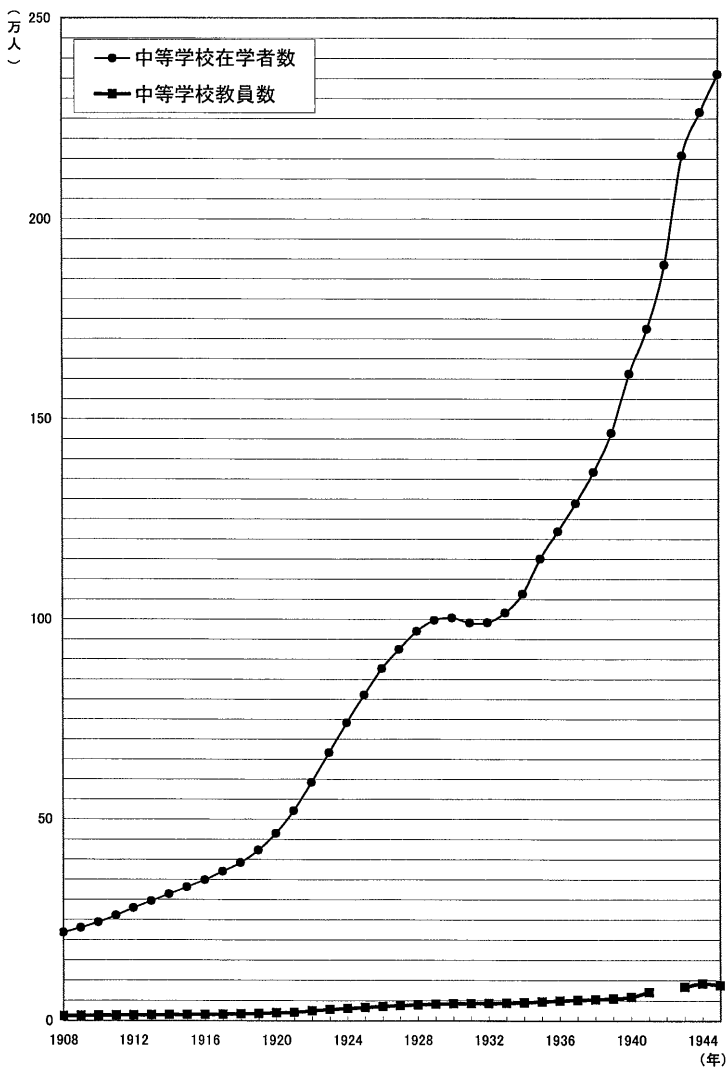


図2 中等学校の在学者数と教員数

この中等教員不足の問題に対して、文部省は、中等教員養成機関である高等師範学校・女子高等師範学校の増設という方法を採用ませんでした。文部省では、臨時教員養成所の増設、「文検」と呼ばれた文部省検定試験の実施、私立大学卒業生への無試験検定認可などのいづれも応急的な措置によつて、中等教員の不足問題に対応するという方法を採用したのでした。しかし、文部省の対応策は文字通り応急的な措置でしかなく、根本的な解決策としての高等師範学校の増設を望む声が次第に高まつていくのでした。

◆臨時教育会議答申と師範教育

一九一七年、第一次世界大戦後の教育政策を検討するため、内閣に臨時教育会議（一九一七〜一九一九年）が設けられました。この臨時教育会議には計九回の諮問が行われ、その答申の内容は、初等教育から高等教育にまで及ぶ広範なものとなりました。一九一八年には、師範教育に関して、次のような内容の答申も出されました。

……高等師範学校ハ現在ノ如ク之ヲ特設シ其ノ職員ノ待遇ヲ高メ内容ノ改善ニ力ヲ用フルト共ニ……教授ヲ増員シ設備ヲ完全ナラシムルコト……師範学校、中学校、高等女学校ノ教員ノ需要ノ増加並有資格教員補充ノ必要ニ鑑ミ高等師範学校ノ収容力ノ増加……ヲ図

表1 高等師範学校設置を求める建議案（1925～1927年）

提出年	提案都市名
1925年 第50回帝国議会	①北海道函館市 ②北海道札幌市 ③山形県鶴岡市 ④岩手県盛岡市 ⑤愛知県岡崎市 ⑥石川県金沢市
1926年 第51回帝国議会	①山形県山形市 ②福島県若松市
1927年 第52回帝国議会	①福島県郡山市 ②宮城県仙台市 ③熊本県熊本市 ④福岡県福岡市 ⑤福井県福井市 ⑥佐賀県佐賀市

（『岡崎高等師範学校五十年史』より作成）

ルコト……高等師範学校生徒ニ対スル給費ヲ復活スル
コト

（『資料 臨時教育会議』）

ところで、この臨時教育会議答申の背景には、中等教員養成をめぐる高等師範学校と帝国大学との関係についての論争的な問題がありました。それは、具体的には、帝国大学における中等教員養成を強化するとともに高等師範学校は廃止することの是非をめぐる問題でした。したがって、一九一八年の答申は、高等師範学校の特設という従来の方向を確認している点で、この論争に終止符を打つたとみることができます。

◆高師誘致運動ブーム

これまでに述べた中等教員の不足問題と臨時教育審議会の答申は、結果的に高等師範学校の増設運動（＝誘致運

動)に拍車をかけることになりました。それは、一九二五年から一九二七年の三年間に、全国一四の都市が高等師範学校の誘致を内容とする建議案を帝国議会に提出しているという事実からも理解できると思います(表1参照)。

本書のテーマである岡崎高等師範学校についても、こうした誘致運動ブームに乗る形でさまざまな活動が行われました。その詳細については、次章で述べることにします。

二 創設の経緯―岡崎市による設置運動

◆二〇年にわたる設置運動

岡崎高等師範学校は一九四五(昭和二〇)年に創設されましたが、その設置に至るまでには断続的に二〇年の歳月が費やされました。最初の試みは一九二五年のことで、前章で述べたいわゆる高師誘致運動のブームにおける帝国議会への建議案の提出でした。そして、次の試みは、その翌年における帝国議会への請願の提出です。